

常任理事会だより

山川智之

本稿では、前号で報告後、平成 29 年 7 月 28 日、9 月 22 日、10 月 27 日に開催された計 3 回の常任理事会の内容のうち主なものをお伝えするとともに、日本透析医会の主な活動についてご報告します。

1. 2018 年度診療報酬改定対応について

本稿では 2017 年 11 月上旬までの当会の動きとして報告させていただきます。

2018 年度の診療報酬改定については、介護報酬との同時改定となり、医療と介護の大幅な一体改革がなされる方針の中で、透析医療が今回の改定で狙い撃ちされるのではないかと、という情報がかなり早い段階で伝わってきました。

上記の状況も踏まえ、例年よりかなり早い段階の 4 月 24 日に厚生労働省保険局医療課を訪問、質を担保しない不適切な診療報酬削減は、悪貨が良貨を駆逐することになりかねないことなどを説明、専門家の関与の必要性を訴えました。

またこの時点で、厚生労働省より日本透析医学会に透析医療の実態調査に対する協力の強い要請があり、医学会がその要請を受けたことで当会も検討の結果、調査に協力することになり、調査は 10 月に実施されました。調査の内容については、経費等の実態を調査結果が正しく反映しない可能性があると考えられたため、厚生労働省の担当者に対しては、診療報酬改定作業において、透析医療の実態を正しく把握し適切に対応いただくよう要望するとともに、10 月 18 日には中医協委員である日本医師会の松本純一常任理事に面会し、実態調査の問題点について説明、一定の理解をいただきました。

10 月 26 日の経済財政諮問会議において、有識者議員から「社会保障改革の推進に向けて」という文書が提出され、入院透析患者で 4 時間以上 5 時間未満の透析を受けている患者数は、都道府県別の年齢と人口で補正後約 4.5 倍の差がある、との資料が示されました。

厚生労働省は、透析医療に地域差があるとのこの指摘を受け、「国民皆保険を堅持するため、効率化・適正化を図る」具体的方向性の中に透析医療の適正化を明示しました。一部のメディアはこの経済財政諮問会議の動きを「過剰な透析が行われていることから厚生労働省が透析診療報酬を見直す方針」と報道しました。

しかしながら、この会議の資料で示された透析医療の地域差は、地域の透析患者数、入院患者比

率、治療法などの影響を大きく受けたものであり、これをもとに地域によって過剰な透析が行われていると結論づけるのは明らかな誤りであります。この資料の問題点については厚生労働省担当者に注意を促しました。

以上、日本透析医会としての次回診療報酬改定に対する11月上旬までの動きの概要をご報告させて頂きました。今回の改定は、2002年以來の厳しい改定となる可能性が高く、未だかつてない危機感を持って対応しておりますが、透析医療費削減は官邸サイドの意向という情報もあり、厚生労働省の担当者レベルには、透析医療の現状について理解していただくことはできても、大きな政治的圧力に対抗できていない実情があります。

本会としては、日本の透析医療の質を守るため今後も最大限の努力をしていく所存です。会員各位のご理解、ご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

2. 日本透析医会創立30周年記念講演会、記念祝賀会開催および研修セミナーについて

日本透析医会創立30周年記念講演会および祝賀会を10月21日に東京・経団連会館にて開催させて頂きました。日本透析医会のこれまでのあゆみを今後の展望も含め講演会ではご報告させて頂きました。厚生労働省、日本医師会、関連学会等から多数のご参加を頂き書面ではありますが深く感謝申し上げます。

例年、地方で開催しておりました秋の研修セミナーは本年度は開催しませんでした。来年以降は例年通りの開催を予定しております。来春は5月20日（日）に東京で総会と同時開催、秋は11月11日（日）に仙台での開催を予定しております。

3. 大平整爾先生の御逝去に伴う人事について

すでにご存じの通り、当会理事を長らく務められた大平整爾先生が9月5日御逝去されました。誠に残念でなりません。大平先生が務められていた当会研修委員会委員長については、鈴木正司先生に委員長を委嘱いたしました。

4. Web会議システムの稼働について

今年度、Web会議システムを導入、試験的に運用を行っていましたが、本格運用の目処がつかまりましたので常任理事会にWeb会議を正式に導入することになりました。状況を見て委員会等にも導入を進めていく方針です。これにより会議コストの削減、出席者の負担の軽減が期待できます。

5. 日本透析医会雑誌のホームページ（HP）掲載

日本透析医会雑誌については、手前味噌ではありますが、内容については評価して頂いているにもかかわらず、会員でないと読むことができない、という声が多くあり、検討の結果、過去3年より前のものについては、HPに公開することになりました。1985年発刊の創刊号以後、2014年発刊の号まではHPのPDFファイルとして誰でも読むことができるようになりました（2017年11月現在）。過去3年以内発刊のものについてはこれまで通り会員のみ閲覧可としております。透析医療の歴史の一つの資料としてご活用頂ければ幸いです。